

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号993

ちなみに大樹と言う名前は大樹と言う言葉の響きが気に入っているのと大器晩成の意味もあり付けました。

しかし今は、この大樹にあやかってタイキシャーロックなどのタイキと言う名前の馬でよく競馬をしています。(父)



フランスの大樹さん

特別住民番号1001

ぼくの名まえが大樹というのは、おかあさんが大樹で生まれたからです。大樹って、フランスごでも日本ごでもかけます。ぼくは、フランスごも日本ごもできます。ぼくは、フランスのルバロワで生まれました。ぼくの生まれた日は、1992年の7月26日です。1993年に、大樹町のかいふのおじさんのぼくじょうへ行きました。うしがいっぱい、いました。

(大樹 七さい)



赤ちゃんが生まれたその瞬間に看護婦さんから、「この子の名前は？」と聞かれました。いくつかの名前を用意していたのですが、出産に立ち会っていた主人がすぐに「大樹」と答えました。名前のおりに、大きな樹木のように元気にすくすくと育てくれました。去年は、大という字が書けるようになり、今年は、「樹という字は、村に似ているけどちょっとむずかしいね」と言いながらもついに書けるようになり、誇らしげです。

今年も、南フランスのカマルグ地方の海岸を訪れました。このあたりは野生の白馬や、闘牛用の黒牛の放牧などで知られています。土地の子と岩場にびっしりとついたムール貝を拾いあつめて、砂浜で遊んでいる大樹を見ながら、小さな頃に弟や、いとこ達と遊んだ大樹の海岸を思い出していました。いつかまた、家族そろって、大樹の牧場や海辺を訪れたいと思っています。(母)

千葉県松戸市の大樹さん

特別住民番号1009

私は、大樹町の特別住民「岩田大樹(だいき)」の父です。本人はまだ3歳11か月のため、私が代わりに書かせていただきます。

「大樹」と名付けた理由は、

(1)私も妻もバイクでの北海道旅行が大好きであったので、北海道の地名にちなんだ名前。

(2)「〇〇ちゃん」と呼べる名前。

(3) 男らしい名前、この三点からでした。

北海道の地名で名前に相応しいものがなかなか見つからず、いい加減あきらめようかと思っていたところ、ふと目に入ったのが「大樹町」でした。そして、行ったこともない、ただ地図で見つただけでは、わが子に申し訳ないと思い、昨年夏、「命名所縁の地」、大樹町を訪れる旅に出ました。初めての大樹町は、いかにも北海道らしい風景が広がり、「命名所縁の地」として相応しいところで感動しました。と同時に、将来、息子に名前の由来を聞かれたら、「そこへ行ってみれば分かる」なんてカッコいいセリフを言おうかな、などと思いました。

大樹町には、私達の周りには無い雄大な自然がたくさん残されています。今後も、その大自然と共存した町の発展をお祈りしています。



(追伸)本年8月、我が家に第二子(女)が誕生しました。「岩田ふらの」です。(父)

福島県郡山市の大樹さん

特別住民番号1011

自分が子供を持つなんて想像できなかった私も、大樹が小学三年生となり、今では子供に「こわいよー」と言わせる程の逞しい日本の母になりました。

この企画を聞いて、生まれた時に感激いっぱい書いた誕生のアルバムを開いてみました。今では私の足のサイズを追い越すかと思われる程の彼の足形は7センチ位しかなくて、その時手に抱いた、はかなげでおっかなびっくりの命を思い出します。

その時、皆さんに出した葉書をそのまま書きますとー

『平成2年5月6日、私達に初めての子供が生まれました。さんさんと、太陽の光を受けて、のびのびと枝葉を繁らせ、鳥達が羽を休め、人も動物もその下で憩う、そんな南国の大木をイメージして「大樹」と名付けました。大きい愛に包んで育ててあげたいと思います。』

相手の気持ちを汲んであげられる、強く、優しい男になって下さい。

将来お酒が飲める年になったら、おいしいビールを飲みましょう。(母)



埼玉県浦和市の大樹さん

特別住民番号1012

昭和56年5月27日、私達の初めての子供として生まれました。生まれた時の体重が3823gと大きな赤ちゃんでした。

名前をつけるにあたっては、「樹」という字を使って、つけたいと思っていました。「樹」という字の持つイメージや、字の形も気に入っていました。それと私達の名前との関連も考えました。

田んぼに原っぱに 葉が 茂る

田原 葉子 茂

となるので、その後に、大きな樹、とつづけたかったのです。

読み方は、元横綱の輪島大土さんの「大」が「ひろ」と読むのを知って、祖父の「博」の「ひろ」と音(オン)が同じなので「ひろき」としました。

名前のおかげでしょうか、今では身長が185cmと伸びました。もうこの辺で止まってほしいと思っています。

高校三年生ともなれば、いっしょに歩いてくれない息子ですが、いつかいっしょに北海道の「大樹町」に行ってみたいと思います。(父)



東京都台東区の大樹さん

特別住民番号1013

僕の名前は清水大樹、3才です。

名前はママの大学時代の教授が付けてくれました。

今は夏休みですが、今年の春から幼稚園に行っています。今の僕のあそびは、日本地図パズルをすることです。北海道は遠くて行ったことはないけれども、パズルでいつも行っています。

今度いつか、僕の名前と同じ町の温泉に行ってみたいです。

大自然の中の、その町の特別町民になれる事は、すごくうれしいことです(ならせてくれますか?)

ママやパパは、北海道の様に雄大で、きびしさにたえられる、そんな人になりなさいと僕に言います。できるかな?



千葉県千葉市の大樹さん

特別住民番号1016

「大樹さん」いませんか、の記事を見ました。我が息子は佐藤大樹と
いいです。

大樹のように、大きくて広い心をもって欲しいと願い「大樹」と名付
けました。その後、十勝管内に大樹町があることを知り、乳製品を買う
度に「大樹のチーズだね。」と喜んでいました。

4月に札幌から千葉に引っ越したのですが、札幌の友人が道新の記事を送ってく
れました。

家族も多く、距離も遠くなってしまいましたので、そちらの温泉に宿泊することは難
しいですが、うれしくて応募しました。

大樹町の益々の発展を、千葉の地よりお祈りしております。(父)



東京都世田谷区の大樹さん

特別住民番号1018

生まれて6年後、父の転勤で帯広に引越した。その年の夏に、大樹町
を通して広尾の海に泳ぎに行った。本州に生まれた私が、まさに自分
の名前と出会った瞬間である。昭和34年の出来事であった。

46歳になったが、今までこの名前に対しては、幾分かプレッシャー
と幾分か自負とを感じていた。「ひろき」という読み方は、初対面の誰
からもされたことはない。その後、「いい名前ですね」と言われるのが決
まったパターンである。

大樹という名の由来を、今年76歳になる親父に聞いてみた。私も自分の子供が4人
おり、各々に名前に意味を込めて命名したが、自分の名前の由来を聞くのは、今回が
初めてである。「大」は、気宇壮大な心を持つということ、「樹」は気に通じ、座りがよ
い、ということらしい。私の名前をつけた時、親父の頭には明治維新の頃の佐賀藩藩
主である「鍋島直大」の名があつたらしい。武士道の葉隠れの精神、といったものを気
に入っていたらしい。

親が子の名前をつける時、恐らく「こういう人物になって欲しい」という気持ちを込め
て命名するのだろう。そういう視点から私の人生を振り返ると、親父の込めた期待に
沿った人生を私が歩んでいるかどうかはわからない。恐らく私の生まれた昭和28年の
日本は、戦後の復興がまさに日々とり進められた時代であつたろう。それから46年、
今の日本はすっかり豊かな国になり、大きく成長した時代のひた向きさを失いつつあ
る。そんな時代の大きな変化を背景にして、今の時代に誕生したばかりの「大樹」君達
は、どんな時代を生きてゆくのであろうか。

私も人生の半ばを過ぎたところで、どういう姿勢で、どういうピッチでその第3コーナ
ーに入ろうか、ひたすら考えているこの頃である。全国の「大樹」さん達が各々の人生
を自分の手で創り上げるのと同じように、私は私の「大樹」という人生を磨き上げてゆ
きたい、と考えている。



福岡県福岡市の大樹さん

特別住民番号1025

私の苗字が「平山」という名前なので、山の形で言えば「高山」(高い
山)さんや「大山」(大きな山)さんや「金山」(金の山)さんという苗字に
比べたらあまり目立たない山です。この目立たない「平山」を、どうした
ら素敵な山にできるかと考えたら、この「平山」に小さな木を植えたらど
うかな……ということになりました。

この木が大きな木に育てば、この木を目印に、みんなが集まってくるかもしれませ
ん。



雨が降れば雨宿りしたり、暑い夏には涼みに木陰に来たりと。

待ち合わせの場所にもなるかもしれません。

大きな木(大樹)に育てば、今まで目立たなかった「平山」(平たい山)も、素敵な「山」に変身するのです。

大樹という名前には、たくさんの人が集まってくるような人になれば……という思いが込められている。

と両親が、教えてくれました。小さな頃は、この名前が気にいらず、もっと普通によくある名前にあこがれた時期もありましたが、この話を聞いてから「大樹」という名前がとって好きになりました。

今、私は仕事の関係でアメリカのロサンゼルスで生活をしています。家族を日本に残しての単身赴任で、毎日大変ではありますが、日本にいるたくさんの「大樹」さんに負けないように頑張りたいと思っています。そして、いつの日か「大樹町」に行くことができたら……と夢見ています。

北海道浦河町の大樹さん

特別住民番号1026

昭和55年5月5日出産予定。オール5の生年月日に、喜びと不安を覚え、いやむしろ不安の方が強く(数字負けするのでは?)、4月末、オートバイにまたがり(ムチャな母親アハハ)4日くり上げて5月1日、メーデーの日に、無事第一子である男の子を出産しました。どちらが生まれても良い様に、産着は白、名前も二通り(男女)本を買って来て考えてありました。でも男の子に考えていた名が漢字一文字で、その名は良くないと言われ、主人の要望もあり、樹のつく名にしようという事で、大地にしっかりと根を張る樹の様に、たくましく強くという願いをこめて、大樹と書いて、ひろきと命名しました。ところが成長過程で、予期せぬ事しばしと言うのは、ひろきとつけた名が、病院の先生始め、幼稚園、小学校入学でみな、たいき、もしくはだいきと呼び、誰もひろきとは呼んでくれず、その度、いえひろきですと、いい直さなければならず、特に本人は、誰もが素直に呼べる名に何故しなかったと、文句こそ言え、この名に感謝どころではなく、改名したいなどと言い出す始末でした。時には(体がやせているので)ヤナギとでもつければよかったしょ!!などと、そしてとどのつまり、俺は絶対、名前負けしているなどと、さげんでいます。アハハハ。でも最近、天馬街道が出来、気軽に十勝に入る事が出来、大樹町を通るたびに、あんたの名前、有名でしょ、どこも大樹だらけ(看板)でなんて言っている時、大樹さん募集の記事が出て、親せき、友達などが記事の切り抜きを持って来てくれ、出してみたと応えんしてくれ、大きな賞はもらえなかったものの、特別住民という事で、フロもただだし、年に一回、宿泊出来るとの事で本人は、少し気に入った様子。砂金出るらしいから、俺も将来、金持ちになるな、なんて勝手な事を言っています。



私自身も数字負けより名前負けの方が強かったかなーなんて時々思いますが、仕事に遊びにと、元気にとび回っている彼を見ていると、命名時の事も忘れ、これからの人生に期待し、見守ってやりたいと思っています。(母)